様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月　 ４ 日現在

機関番号：１３７０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2010～2014
課題番号：２２５３１０１９

研究課題名（和文）人格教育に基づく問題解決型の道徳授業の開発と実践に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the development and practice of problem-solving type moral lesson based character education

研究代表者
柳沼　良太（YAGINUMA, Ryota）

岐阜大学・教育学研究科（研究院）・准教授

研究者番号：３０３２９０４９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、人格教育に基づく問題解決型の道徳授業の開発と実践について検討した。まず、アメリカの人格教育の理論と実践を調査した。次に、日本の道徳教育とアメリカの人格教育を比較検討した。そこから、日本の道徳教育の課題と改善策を見出した。第三に、アメリカの人格教育の成果と課題を検討した。特に、人格教育が学力向上や生徒指導にどのような影響を及ぼすかを検討した。第四に、アメリカの人格教育パートナーシップが提唱する「効果的な人格教育の11原則」を取り上げ、具体的に検討した。第五に、人格教育の評価方法を検討し、その科学的根拠を考察した。以上の研究を踏まえて、日本に適した問題解決型の道徳教育を構想した。

研究成果の概要（英文）：This study examined about the development and practice of problem-solving type moral lesson based on character education. At first, I investigated for the theories and practices of American character education. At second, I compared Japanese moral education to American character education. And then, I could find some issues and those solutions for Japanese moral education. At third, I rethought about the influence of American character education for learning abilities and student guidance. At fourth, I took up "effective 11 principles of character education" proposed by Character Education Partnership, and then analyze them concretely. Finally, I examined for the scientific evidence in evaluation of character education. Based on the above study, I have developed the problem-solving type moral lesson corresponding to Japanese moral education.

研究分野：道徳教育

キーワード：道徳教育　人格教育　問題解決学習　道徳授業

１．研究開始当初の背景

（１）研究代表者は若手研究Aで「問題解決型の道徳授業」を開発し、その実践研究を行ってきた。こうした指導方法は、従来の「心情把握型の道徳授業」よりも実効性が高いことが実証された。こうした問題解決型の道徳授業はアメリカの新しい人格教育(character education)と多くの共通点があることが分かった。

（２）問題解決型の道徳授業を改善するために国内外の先行研究を検討した。アメリカでは 1890 年代にＪ・デューイがプラグマティズムに基づく道徳授業を開発し、1960 年代にＬ・ラスらが「価値の明確化」を開発し、1970 年代にＬ・コールバーグがモラル・ジレンマの授業を開発し、1990 年代にＴ・リコーナらが新しい人格教育を開発している点を把握した。特に、新しい人格教育は実際に子どもの学力や道徳性の向上に効果があるため、問題解決型の道徳授業と関連していることが明らかになった。

２．研究の目的

（１）本研究の目的は、新しい人格教育に基づく問題解決型の道徳授業を開発・実践・検証・改良することを通して、その実効性と有用性を高めると共に、わが国の道徳授業を改良・発展させることにある。

（２）次に、アメリカの人格教育の理論と実践を調査し、日米の道徳教育を比較検討することで、問題解決型の道徳指導法を改良することである。

３．研究の方法

（１）アメリカの新しい人格教育を実践している学校を実地調査して、日米の問題解決型の道徳授業を比較検討する。リコーナ教授やデイビッドソン教授など人格教育研究者と共同で問題解決型の道徳授業を考察する。

（２）アメリカの人格教育に基づいて問題解決型の道徳授業について指導法を理論的に確立し、その授業実践を計画・実践・検証する。

４．研究成果

（１）日米の道徳教育の比較検討

日米の道徳教育を行政的側面、指導内容と方法の側面、学校全体での取り組みの側面から多角的に比較検討した。

アメリカの「新しい人格教育」は、道徳的な教育目標を設定し、道徳的価値を意図的かつ計画的に教育する点では、日本の道徳教育に類似している。

また、全教職員が学校教育全体で道徳教育に取り組む点や家庭や地域社会と協力して包括的に取り組む点でも、両者は共通している。

一方で、「新しい人格教育」は、様々な非営利団体や研究機関と連携して展開され、学業や課外活動とも融合しながら、認識力や共感力や実践力を調和的に育成し、その効果を科学的に評価してアカウンタビリティを果している。

それに対して、日本では道徳授業を各教科や生徒指導や特別活動と区別し、豊かな情操や道徳的心情の育成に重点を置き、数値による客観的評価を控えている。わが国の道徳教育を多様で実効性のあるものとするために、人格教育は示唆に富み参考になる。

こうした点を論文「日米の道徳教育に関

する比較考察―新しい人格教育との比較を中心に―」等で発表した。

（2）学力向上と規律向上との関連性

アメリカで既に 30 年近く推進されてきた「新しい人格教育」が、学力向上や規律改善（いじめ防止）の面でどれだけ成果を上げ、どのような課題を残しているかについて検討する。

新しい人格教育は、科学的な根拠を重視するため、子どもの実態調査を徹底し、具体的な行動目標を設定し、それに準拠した実践と評価を計画的に行ってきた。各種の調査研究によれば、こうした人格教育が学力向上や規律改善（いじめ防止）において量的・質的な成果を収めてきたことが明らかになった。また、人格教育は学校全体で取り組まれ、学習指導や生徒指導と関連づけられ、体験活動や問題解決学習を取り入れると共に、家庭や地域とも連携して中長期的に展開することで、実効性を大幅に高めたことも実証された。

今後の課題としては、子どもの実態や教育効果を理解するためのアセスメントをより客観的かつ公平な評価方法に改良すると共に、日本を含めた諸外国の道徳教育と比較検討することである。また、一部の人格教育では今日でも偏った価値観や理想を教え込む傾向があるため、多様な価値観を交流できる批判的思考やケアリング的発想をより柔軟に導入することである。

以上の研究成果を論文「新しい人格教育の成果と課題～学力向上と規律改善（いじめ防止）に関連づけて～」等で報告した。

また、こうした問題解決型の人格教育の取り組みを岐阜県可児市でも取り入れ活用した教育実践研究として、論文「いじめ問題に対応する道徳教育の開発・実践」を発表した。

（3）人格教育の 11 原則の検討

アメリカの人格教育パートナーシップが提唱する「効果的な人格教育の 11 原則」を取り上げ、具体的に検討した。

アメリカの人格教育は、人格の認知的側面、情意的側面、行動的側面を総合的かつ効果的に指導するところに特徴がある。アメリカで全国規模の展開をする「人格教育パートナーシップ(以下、CEP と略称)」では、先ず子どもが「正義、勤勉さ、思いやり、尊敬、勇気」という中核的価値を習得し、それらを人生の指針とする理由を学ぶ。次に、中核的価値を追求する子どもを支援し、意欲づけるような学校文化を培う。こうした学習や指導の指針となる原則が、「効果的な人格教育の 11 原則」である。この原則は、どのようにすれば質の高い人格教育を構想し、実施できるかについて詳述されているため、人格教育プログラムの計画、実践、評価に利用することができる。

この 11 原則には詳しい解説と採点ガイドがある。そこでは各原則について具体的に 2～4 項目にわたり、原則が実施された場合のあるべき姿を説明している。模範的な実践に関する主要な指標は、各項目に準拠し設定されている。主要な指標は、これまで人格教育で表彰されてきた優秀校(National School of Character)への調査訪問と評価結果にもとづいて開発されているため、将来、各校が模範校となるための実践的な原則ともなっている。

CEP は、学校や地域の実践者が各原則の実

施レベルを評価するよう勧めている。採点ガイドは、現在の人格教育の実践の見直し、短期・長期目標の設定、項目ごとに採点による継続的な改善に役立つ。自己評価は、関係者の代表者グループ（教職員、管理職、親、子供、地域の人々など）を招集して行う。各原則の評点は、各行の項目の平均値を計算して出し、全体の評点は 11 の評価点の平均として出す。項目ごとに示された主要な指標は、模範的な実践として期待される観察可能な成果を表しており、高い評点をつける場合は、実践の全リストを証拠として提示する必要がある。

以上の研究成果を「アメリカの人格教育から特別の教科道徳を考える」(『道徳の時代をつくる！』所収）等で公表した。

（4）道徳科の指導方法

従来の道徳授業は画一的で実効性のない点が批判の対象となってきた。その改善を目指して、平成 26 年 10 月に示された中央教育審議会道徳教育専門部会の答申では、「特別の教科　道徳」（以下、道徳科）を設置して、道徳教育の目標、指導、評価を一体化し、多様で効果的な授業を展開するよう具申した。研究代表者も同審議会の委員として、新しい人格教育に基づく問題解決型の道徳授業を提言した。

道徳科の目標として新たに「道徳性の育成」が掲げられ、具体的には「一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決し、よりよく生きていくための資質・能力を培うこと」として示された。特に、実際のいじめ問題や規範意識の低下や人間関係の希薄化にも対応できるように、生きて働く道徳性の醸成にポイントを置いた点を検討した。

また、今後は道徳科で情報モラル、生命倫理、環境保全等の今日的課題も一層取り上げられるため、子どもが具体的な問題について学び、考え、判断し、意見を交流し、価値を創造することも求められる。そこでは、従来のように道徳的な心情や態度など情意的側面にだけ執着するのではなく、思考力や判断力に関する認知的側面および行為や習慣に関する行動的側面をもバランスよく育成すべき点を提唱した。

そのための多様で効果的な指導方法として、アクティブ・ラーニングに対応させながら、新しい人格教育に基づく問題解決型の道徳授業を再構成した。

以上の研究成果を論文「特別の教科　道徳への期待と課題」等で公表した。

５．主な発表論文等

[雑誌論文]（計８件）

1　柳沼良太「特別の教科　道徳への期待と課題」、単著、日本道徳教育学会紀要『道徳と教育』、査読有、333 号、2015 年 3 月、165－171 頁。

2　柳沼良太「いじめ問題に対応する道徳教育の開発・実践」、単著、『岐阜大学教育学部研究報告（教育実践)』、査読無、17 巻 1 号、2015 年 3 月、125-134 頁。

3　柳沼良太「日米の道徳教育に関する比較考察～目標、内容、指導法、評価を中心に～」、単著、『岐阜大学教育学部研究報告（人文科学)』、査読無、63 巻 2 号、2015 年 3 月、163－172 頁。

4　Ryota Yaginuma, “A Study on Establishing Moral Education”岐阜大学教育学部研究報告（人文科学)、査読

無、62 巻 2 号、291-229 頁、2014 年 3 月。

5　柳沼良太「新しい人格教育の成果と課題～学力向上と規律改善（いじめ防止）に関連づけて～」2014 年 3 月、日本道徳教育学会紀要『道徳と教育』、査読有、332 号、75-86 頁。

6　柳沼良太「日米の道徳教育に関する比較考察―新しい人格教育との比較を中心に―」、単著、2013 年 3 月、日本道徳教育学会紀要『道徳と教育』、査読有、331 巻、115-124 頁。

7　柳沼良太「学校教育全体を通した特別活動の構想」、単著、『岐阜大学教育学部研究報告（人文科学）』、査読無、62 巻 1 号、2013 年 3 月、221-229 頁。

8　柳沼良太「人格教育の継承と発展～リコーナの教育研究に注目して～」(単著)『岐阜大学教育学部研究報告　人文科学』、査読無、第 60 巻第 2 号、2012 年 2 月、169-178 頁。

[学会発表]（計６件）

1　柳沼良太「認知・情緒・行動をバランスよく取り入れた道徳授業」、公開シンポジウム「道徳授業といじめ防止」、兵庫教育大学（兵庫県加東市）、2015 年 3 月 14 日。

2　柳沼良太「道徳教育とＳＥＬ」、日本ＳＥＬ研究会第 6 回大会、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）2015 年 3 月 1 日。

3　Ryota Yaginuma, “Comparative Study on Japanese/American Moral Education,” The Association for Moral Education, California(U.S.A.) November 2014.

4　Ryota Yaginuma, “The Problem-solving Approach to Moral Education :Toward Establishing Moral Education as a School Subject,” The Associaton for Moral Education, Montreal(Canada), November 2013.

5　柳沼良太「諸外国を参考に特別の教科道徳を設計する（１）～アメリカの人格教育から～」、日本道徳教育学会、昭和女子大学(東京都世田谷区)、2014 年 7 月 6 日。

6　柳沼良太「新しい人格教育の成果と課題～学力向上と規律指導（いじめ防止）に関連づけて～」、日本道徳教育学会、國學院大學(神奈川県横浜市)、2014 年 6 月。

[図書]（計５件）

1　押谷由夫・柳沼良太編『道徳の時代をつくる！～道徳教科化への始動～』、編著、教育出版、2014 年 7 月、執筆担当「特別の教科　道徳をどう位置づけるか」等 18－31 頁、「特別の教科　道徳のカリキュラムを設計する」44－69 頁、「アメリカの人格教育から考える」102－109 頁。

2　押谷由夫・柳沼良太編『道徳の時代がきた！～道徳教科化への提言～』、編著、教育出版、2013 年 10 月、全 143 頁、担当箇所「道徳教育の成果と課題を考える」11－20 頁、「教科化に賛成派と反対派の主な主張」27－31 頁、「教科化の制度設計を考える」42－59 頁、「アメリカの人格教育から何を学ぶか」97－102 頁。

3　柳沼良太「アメリカ合衆国の大学」、山崎英則編『大学の生き残りと再生～その手がかりを求めて～』、分担執筆、あいり出版、2013 年 9 月、210-224 頁。

４　柳沼良太『「生きる力」を育む道徳教育～デューイ教育思想の継承と発展～』、単著、慶應義塾大学出版会、2012 年 9 月、全 230 頁。

５　柳沼良太「道徳性の発達」55-67 頁、「諸外国における道徳教育」123-136 頁。『新たな時代の道徳教育』、八千代出版、2012 年 5 月、

６．研究組織

①研究代表者　柳沼良太

②柳沼　良太(YAGINUMA, Ryota)

岐阜大学・教育学研究科・准教授

③研究者番号 30329049